

ぶらり 諏訪塾 ③ 「高遠藩医・浅田宗伯の足跡」

諏訪大社前宮の社務所前、高遠(西街道)沿いの玉垣に家庭薬6社の名が7カ所刻まれている。社務所側から順に地元の寄進者を採りて浅田鉛本舗が2本、続けて胃散元祖、五臟圖本舗、森田寶丹本舗と並ぶ。手水舎側には寶母散本家、6つ飛んで清婦湯、清心丹本舗と並んでいる。

手水舎側の控え柱に明治四十四年八月とあり、明治時代に寄進されたようだ。胃散元祖とは太田胃散の昔の登録商標のようだ。良く知る名も、馴染みの無い名もあるが、全く現在でも手に入る東京の家庭薬のようだ。ちなみに信州の製薬会社の名は無い。2本の玉垣を社務所に一番近い場所に寄進し

ている浅田鉛が、東京で仲間を掛け有志が寄進したのだろうか。

浅田宗伯から喉あめのしじを教示され「御業さらし水飴」を堀内伊三郎が発売した。二代目の伊三郎は浅田宗伯をリスペクトして「浅田鉛」と改名している。宗伯は栗林村(松本市島立)出身であり、伊三郎は青島村(伊那市美郷村)出身だったことから、同郷のよしみで宗伯の書生になりしじも授かったようだ。

浅田宗伯は高遠藩と土佐藩の藩医を務めた後、徳川將軍家の典医になり、最後は明治政府宮内省の侍医にまでなった。伊三郎も高遠と接する地の出身であり、高遠時

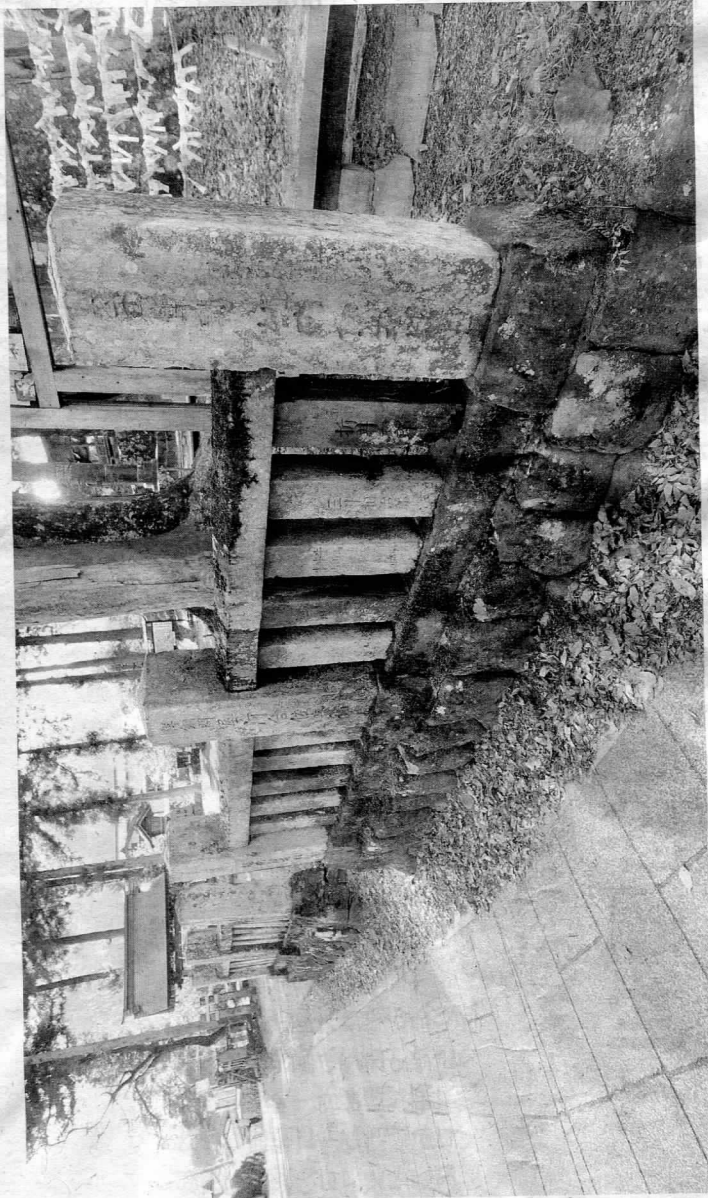


代からの書生だったのかもしれない。高遠藩が古くは大祝からの分かれており、前宮はもともと大祝の居住地であったことから、仲の良い仲間を誘い玉垣を寄進したのだろう。

ちなみに浅田鉛本舗は戦時中に工場が焼けてしまったが、戦後間もない昭和22年には宮坂醸造(山高味噌)の中野工場を借りて製造を再開している。これも同郷のよしみの賜物だったようだ。

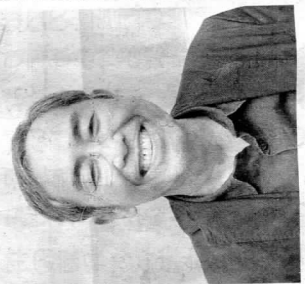
＝ 随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは
諏訪塾事務局(電話070・833
23・2107)へ。



諏訪大社上社前宮社務所前の玉垣

今回の筆者



五味光一さん

一級建築士。まち歩きぐぐの講師も務める

- ぶらり 諏訪塾の冊子は
- ・ 諏訪市観光案内所
(JR上諏訪駅内)
 - ・ れすとらん 観光しずみ屋
(諏訪市諏訪)
 - ・ 書店「言事堂」
(諏訪市末広)
 - ・ すわ大書情報センター
(諏訪市博物館内)
 - ・ 諏訪書店(通販のみ)
57・0997
 - ・ 柏屋カコエ&キヤロリー
(諏訪市中洲神宮寺)
で販売中です。